



物価対策水道事業

質 水道料金の基本料金免除、恩納村の大型ホテル法人格を有していない会社も村の税金で免除をしなければいけないのか、仕分けして村民への基本料金の免除が延命化できるか伺う。

答 上下水道課長（金城 正道）

一般世帯及び事業所に対し、既に周知しており検討はできませんが、次年度も臨時交付金が活用できれば、一般家庭世帯のみを対象に免除検討したい。

漁村振興と海ぶどうの施設整備強化について

質 海人の生産者の所得向上するために、今部会と大学院の専門家と調査研究をして、早い時期に結論を見て、工事に入るという答弁を受けて。生産者に不安を与えず、どうい

うスケジュールで行くのかを伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

恩納漁港と前兼久漁港は老朽化が進行しており。漁協がその都度、破損箇所の応急処置を行っていますが、建屋の鉄骨部分のさびの浸食や屋根の破損による雨漏りが発生するなど、経年劣化が顕著となっており、生産量や品質への影響に加え、漁業者の安全面の確保も懸念されています。本年度、修繕に向けた調査を検討するとともに、財源を含めて対応策を検討したい。

近隣、うるま市石川地区との信頼関係に基づく姉妹都市の締結案について

質 恩納村リゾートホテルに滞在する観光客によりローカルで多様なうるま市の文化・食・芸能など楽しみを提供するため、石川地区の豊富な飲食店と提携し、定期運行の観光バスの展開や事業化を見据えて相互利益の追求、協働、意思の確認、意見交換を実施するために恩納村も参加しています。村長の意見等を伺う。

答 商工観光課長（城野 正和）

石川の観光闘牛、勝連の肝高の阿麻和利の公演といったうるま市の文化を巡って、その後、石川社交街の方々を含めて、

文化体験や夜の飲食店が豊富なるうるま市石川地区が連携し、夜間消費の拡大と滞在価値の向上を目指すことについての意見交換でした。連泊客の満足度向上や、移動手段の提供による恩納村のメリット、経済活性化と新規顧客の確保といったうるま市石川地区のメリットなどが挙げられました恩納村に来てよかったと感じてもらえるような施策になれば連携するメリットとして十分あり得ると感じたところです。

答 村長（長浜 善巳）

連携を図っていく。特に恩納村の課題でもあるナイトコンテンツについては、観光客の満足度向上につながると考えています。

質 市町村の生き残りをかけた戦略、周りのお付き合いを広げていく長い目で見えた持続可能発展に向けた取り組みを考えるべきだと思いが見解を伺う。

答 商工観光課長（城野 正和）

観光客の満足度向上につながる形で今後の連携の在り方について協議していきたいと考えています。

答 村長（長浜 善巳）

今後一緒に連携できるところはうるま市と協議しながら進めていきたい。

宇加地区からの陳情について（アクセス道路の件）

質 アクセス道路の件、宇加地区の区長をはじめ区民は行政の動き、目的が達成できるようにと祈る一心で固唾をのみながら期待をしているが、読谷村と協議を行ったかを伺う。

答 企画課長（宇江城 悟）

宇加地区長、塩屋区長、真栄田区長、山田区長から意見をいただき、防衛対象区域が絡んでいることから、慎重に検討してほしいという意見がありました。村を跨ぐ路線という観点から、読谷村との合意形成と地元宇加地区はもとより近隣地域との意見交換が重要と考えられており、引き続き取り組みを継続して行きたい。

村長選挙の件

質 半年後には現村長4期目の選挙となるかと思うが、村長、率直にこの半年後の村長選挙に臨むのか臨まないのかを伺う。

答 村長（長浜 善巳）

恩納村が、豊かな自然や文化、観光資源に加え国際性と持続可能性を兼ね備えた村として、さらに発展していける大きな可能性を感じております。その実現のためには行政だけではなく村民の皆様、恩納村の未来にとって何が最善であるかをしっかりと見極め、責任ある判断をしていきたい。

害虫防除について

質 化学的防除と物理的防除の違いについて伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

化学的防除は、農薬を使用して病害虫を防除する方法です。物理的防除は、防虫ネット及びビニール、粘着トラップ、袋かけ等、物理的な手法により害虫の活動や侵入を抑制する方法です。

質 アテモヤとマンゴーに対する登録農薬の種類数を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

アテモヤは、殺虫剤、ダニ剤の2種類です。マンゴーは、殺虫剤、殺菌剤、ダニ剤等を含め151種類があります。

提 アテモヤの2種類しかない登録農薬を増やすようアプローチをしてほしい。

質 特定農薬の定義と扱いについて当局の考えを伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

農薬取締法に基づき人や環境等への影響が極めて少ない農薬です。特定農薬の天敵資材は、購入補助金の対象です。特定農薬は、有機農業を含め現場で円滑に活用できるよう配慮されています。

教育支援センター運営状況について

質 教育支援センターの所長及び支援員の年齢構成と教育機関での経験はあるか。

答 学校教育課長（親泊 誠）

所長は、本村の福祉課長などを経験した再任用職員を配置しています。支援員は、教育相談員の経験者、教員の経験者、スクールソーシャルワーカー、保育園勤務経験者など4名の会計年度任用職員を配置しています。年齢構成は30代から60代です。

質 教育支援センターに、通級あるいは面談している児童生徒はいるのか。

答 学校教育課長（親泊 誠）

生徒1名、児童2名が見学して、うち1名は体験通級を行っています。

自動車運転免許証返納者について

質 村内の運転免許自主返納者数の把握が必要と考えるが、当局の考えを伺う。

答 総務課長（喜久山 隆）

件数把握によって、支援を必要としている方の実態把握に資すると理解しています。

質 運転免許自主返納後の移動手段に對して、シェアカーの貸出し、購入補助等の援助の考え方を伺う。

答 福祉健康課長（當山 香織）

外出支援事業等の支援を実施しており、運転免許返納者の移動手段の確保に努めています。多面的な支援策の実を図ります。

障害者等移動支援サービスについて

質 障害者等移動支援サービス事業の利用者の想定人数は。

答 福祉健康課長（當山 香織）

10名としています。生活の行動範囲が広がることで、充実した生活を送ることができるよう支援します。

質 身体障害者協会との連携も重要と思うが、当局の考えを伺う。

答 福祉健康課長（當山 香織）

身体障害者協会との連携は極めて重要と認識しています。定例会で、事業の説明を実施しました。定期的に連携を図り、利用者のニーズを把握し事業の充実に努めます。

総合福祉センター入り口の歩道改修の進捗について

質 利用者の方が18年前から歩道整備をお願いしています。またこども園の児童の散歩途中で引き返した状況がありました。それに対して当局はどのように考えるか。

答 建設課長（當山 国博）

長年にわたる要望があったにも関わらず、歩道利用者の皆様に多大な御不便をおかけしている現状については深く反省し、一刻も早く改善しなければならぬと感じています。早期の工事着手に向け取り組みます。